

平成 22 年 2 月

( 第 1 回 )

京 都 府 教 育 委 員 会 会 議 録

1 開 会 平成22年 2 月 5 日 午前10時35分  
閉 会 平成22年 2 月 5 日 午前11時55分

2 出席委員

大 橋 委 員 長 冷 泉 委 員 岩 田 委 員

畑 委 員 谷 口 委 員 田 原 教 育 長

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

宮 野	教育次長	橋 本	管理部長
高 熊	指導部長	井 関	指導部理事
前 川	総務企画課長	桐 村	学校教育課長
藤 井	高校教育課長	下河邊	総務企画課参事
田 中	学校教育課参事	岩 城	高校教育課参事
奥 田	総務企画課副課長	廣 田	総務企画課主任
嶋 田	総務企画課主任		

## 5 議事の概要

### (1) 開会

委員長が開会を宣告

### (2) 前会議録の承認

ア 1月分1回の会議録について、全出席委員異議なく、これを承認した。

### (3) 報告事項

ア 臨時代理議決の報告について

(ア) 第5号議案 平成22年2月府議会定例会の議決を経るべき議案に対する意見について

#### 【報告】

教育長から、平成22年2月府議会定例会に提出される教育委員会関係議案について知事から意見を求められたため、いずれも異議がないこととし、平成22年2月3日に臨時代理議決を行った旨の報告の後、総務企画課長から議案の概要について説明があった。

イ 請願・陳情等の受理状況について

(ア) 教育環境の改善を求める請願について

#### 【報告】

管理部長から、請願の概要について説明の後、学校施設の改修については、各校舎の老朽の程度に応じて校長の意見を聞きながら計画的に対応していること。また、定期的な点検の中で緊急に対応が必要なものは速やかに行っていること。教員定数については、校長にヒアリングの上、特色ある取り組みに対応していること。スクールカウンセラーについては全校に配置を行っており、来年度についても継続して予算要求を行っている旨の報告があった。

#### 【意見等】

委員から、鴨沂高校は校舎も古く改修が必要と思われること。また、校舎の耐震対策については、地域や保護者の関心も高く、検討状況や今後の予定を早い時期に説明できるようお願いしたい旨の意見があり、管理部長から、耐震性の課題があり工法等の技術的な手法や工事期間中の教育活動の対応などを検討の上、対応していきたい旨の説明があった。また、教育長から、本件では特定の学校について要望が出されているが、要望があったから対応するというものではなく、多くの府立学校を所管する教育委員会としては全体を見て計画的な改修等を行っていくという視点が必要である旨の説明があった。

また、委員から、施設面も大切であるが、伝統ある学校で学ぶことの利点を生かし、その伝統を感じることができる教育活動に取り組む機会を充実いただきたいこと。併せて委員による視察も検討をいただきたい旨の意見があり、委員長から、校長の意見も聞きながら必要なものは速やかに行いつつ、計画的に対応をいただきたい旨の意見集約があった。

(イ) 平成20年度全国学力・学習状況調査結果の公開について

第6号議案と併せて説明が行われた。

(ウ) 京都の定時制・通信制教育を考えるみんなの会からの申し入れについて

【報告】

指導部理事から、申し入れ書の概要について説明の後、本件要望はこれまで要望があった内容について説明を求めるとの趣旨であり、申し入れ書の提出の際には事務局の考えもお伝えしている旨の報告があった。

【意見等】

委員から、毎年提出されている申し入れであることから、要望者の陳述について一度検討してはどうかとの意見があり、委員長から、今まで申し入れのあった内容について説明をして欲しいとのことであるが、事務局において対応をお願いしたいこと。長引く経済不況の中、高校無償化制度が22年度選抜にどのような影響を及ぼすか、はっきりとした見通しが見えない中ではあるが、全日制・定時制・通信制をそれぞれ希望する生徒の学びたいという意欲が生かされるよう選抜制度の円滑な実施をお願いしたい旨の意見集約があった。

ウ 学力向上の取組について

【報告】

学校教育課長から、平成21年度全国学力・学習状況調査の結果の分析に基づき、小・中学校で授業改善や学校改善を進めるポイントを明確に示した「学校改善支援プラン」を作成し、府内の公立小・中学校の全教職員に配布を行うこと。また、小学校の算数科における単元や指導事項について、学年を超えてつまづきを発見し、課題に応じた練習問題を検索し、児童が主体的に取り組むことを支援するツールとして「算数科個別学習支援ツール(仮称)」を作成し、試行中である旨の報告があった。

【意見等】

委員から、学校改善支援プランについては、社会総がかりで教育に取り組む視点は非常に重要であり、自分たちの地域の子どもの現状を知り、考えていかなければならないこと。学力テストの結果を単なる点数の公表ではなく、分析した内容を地域へしっかりと伝えることをそれぞれの市町村で取り組んでいただこうよう努めていただきたいこと。地域の方が学校に積極的に協力したいと思えるよう、わかりやすい仕組み作りをしていって欲しいこと。全教職員に配布されたときに、目新しい用語は意味を共有し、理解できるように説明するなどの工夫もお

願いたい旨の意見があった。また、算数科個別学習支援ツールについては、授業についていけないことをきっかけに不登校となる子どももあり、こうした工夫を進めてつまずく子どもたちへ力を注いで欲しいこと。また、京都市立の学校や家庭でも気軽に使うことができるように検討も行っていただきたい旨の意見があり、教育長から、京都市教育委員会から希望があれば提供していききたいこと。また、家庭での活用では簡単に使うことができるような工夫が必要となり技術的な課題もあるが、検討していききたい旨の説明があった。

#### (4) 議決事項

##### ア 第6号議案 平成20年度全国・学力学習状況調査結果の公開について

###### 【議案提案】

教育長から、平成20年度全国学力・学習状況調査結果の公文書部分公開決定に係る異議申立てに対する答申が、京都府情報公開審査会から出され、異議申立てに対する決定を行うため提出する旨の議案提案の後、学校教育課長から、決定書案の概要及び京都府市町村教育委員会連合会長からの要望（報告事項イ（イ））の概要について説明があった。

###### 【意見等】

委員から、各市町村におけるそれぞれの取り組みがあり、京都府が一方向的に公開することは不相当と考えること。本件の公文書公開請求において市町村別の数値を公開しないことは賛成であるが、教育委員会が情報公開に積極的でないと捉えられることがないように、先に報告のあった学校改善支援プランのように分析結果を公表していくことが大事であること。また、決定書案の実施機関の判断は、これまで議論をした結果であることを丁寧に説明いただきたいこと。調査の実施主体である市町村教育委員会からの要望として実施要領に沿って公表しないで欲しいとの意見は重いものと考えたこととの意見があった。

[原案どおり可決。]

#### (5) その他

##### ア 議事順序の変更について

委員長から。報告事項イ（イ）について、第6号議案と併せて報告を行うことの指示があった。

#### (6) 閉会

委員長が閉会を宣告

署 名

大 橋 委 員 長

冷 泉 委 員

岩 田 委 員

畑 委 員

谷 口 委 員

田 原 教 育 長

事 務 局 職 員